

これからの幼児教育に望みたいこと

親の立場から

村 山 桂 子



難しい理論はわかりませんが、幼い子どもを持つ母親として、

「これからの幼児教育に望みたいこと」は、たしかにあると、張り切って筆をとりました。

はやい話が、私はついこのあいだまで、子どもの幼稚園を決めることで悩んだり、迷ったりしていましたが、少なくとも、幼稚園の選択に悩んだり、迷ったりすることなく、その地域にある近い幼稚園へ安心していかせることができるようにと、これからの幼児教育には望みずにはられません。

私どもには、四歳になる女の子がいますが、四月からは、ぜひとも、二年保育で幼稚園にいれたいと思っています。主義としては、公立幼稚園に入りたいのですが、残念ながら私の地区にはありません。

私は、どこの幼稚園にしようかと迷った結果、近くのA幼稚園でなく、電車で二駅ほど先のB幼稚園に決めました。

私のまわりの者たちは（うちの者までも）、

「大学の附属へでも通うというのならともかく、近くに幼稚園があるのに、何も電車に乗っていくような所へやらなくても……、だいたい、幼稚園なんてどこだっていいのよ」

と、あきれ顔でいいました。

たしかに、幼稚園は近くなければいけません、そういうことは十分承知で、B幼稚園に決めたのです。

それでは、A幼稚園が悪いのかというと、特にそういうわけではないのです。正直いって、いいとか悪いとかいうほど、よく知らないのです。

しかし、A幼稚園に限らず（施設や環境はともかく）、よそから、その幼稚園の教育方針や、内容について知ることは、とても難しいことなのです。知りたければ、

「子どもをお願いしようと思いますが、おたくの園の教育方針

をおきかせください」

そういつて、保育のひとつも見せてもらったらいいのでしょうが、そんなことをしたらそれだけで、もう生意気な父兄だと敬遠されてしまいそうです。

けれど、なんとしても、知らないということは不安なものです。

そこで、それならいっそ、知っている方のB幼稚園へやろうと考えたのです。

ただ、いまとなれば、自分の熱心さと、勇気がたりないために、わざわざ遠くの幼稚園へやることにした自分を少々恥じてはいるのですが……。

しかし、それはともかく、他の方々は、子どもの幼稚園の教育の方向とか、方針などについて知りたいと思わないのでしょうか。

知ったところでどうにもならないということもあるでしょうが、幼稚園の重要性が叫ばれているわりには、幼稚園の内容そのものの理解や認識は、あまり高くないような気がしてなりません。だからこそ、

「だいたい、幼稚園なんかどこだっていいのよ」などというのです。

まだ、子どもだった頃、幼稚園の先生がチイチイパッパの先生という呼ばれかたをしていたことを記憶していますが、それはいまでも変わっていないようです。

私は以前、幼稚園に勤めていたとき、いつもそのことで憤慨し

ていました。

「どこにお勤めですか」

「幼稚園です」

「ああ、チイチイパッパですか」

これが、いまだに、多くの人々の幼稚園の先生に対する観念なのです。ということは、幼稚園がこんな程度にしかり理解されていないということなのでしょう。

けれども、幼稚園がチイチイパッパとおどって、うたって、子どもの子守をしているところだという考えとは、まるで反対な考え方をしている人たちも少なくありません。

「うちの子どもの幼稚園では、とても熱心にオルガンの練習をやってくれるんですよ」

「幼稚園ってありがたいわ。小学校へ入るまでに、字だってなんだって教えてくれるんですから」

幼稚園は小学校の予備校でもないし、オルガンなどを熱心に教えるお稽古教室でもないはずなのに、実際には、こんな人たちが（こんな幼稚園も）いるのです。

これでは何のための幼児教育かわかりません。私は、そのところが不満で仕方がないのです。そして、これからの幼児教育はまず幼稚園を正しく理解することからだと思うのです。ことに、私たち母親は、幼稚園とはどういうところか、なんのために幼稚園へやるのかを、はっきりと知っていなければいけないと思います。

ところが、幼稚園を知り、幼稚園を認識すればするほど、今度は反対に、あんな幼稚園にはやりたくないということが起こってしまうのですから矛盾した話です。

これは、公立にしる私立にしる、幼稚園に恵まれた地域の人々には思いもよらないことでしようが、幼稚園として高い低いの格差が烈しいうえに、教育の方向までも違っている現状では当然あり得ることです。

けれど、あんな幼稚園にはいかせたくないと思っても、幼稚園へやらないというわけにはいきません。

納得のいかない幼稚園にはきっぱりといかせないということになれば、これはみごとに物だと思えますが、みんな、その幼稚園がよくても悪くても、年齢がくればせつと幼稚園へ通わせています。

通わせているということだけでいえば、みんな、ともかく熱心です。

ところで、こうした熱心さは、少し見当違いかもしれません、先頃から幼稚園の義務制とか、就学年齢の引き下げなど、幼児教育の重大性を、しきりに唱えている文部省ではないかと思えますが、どうでしょうか。

いいことには違いないのですが、掛け声ばかりで何も対策をとってくれないのでは、少々恨めしくなります。

単純な私などの頭で考えれば、掛声ばかりでなく一日も早く義

務制にしてほしいと思うのですが、それは、あまりにも単純すぎるいいぶんなのでしょうか。

義務制ともなれば、それぞれに持っている幼稚園の個性がなくなってしまうという心配、そして、いまあるそれらの幼稚園をどうするかということ、山間僻地の場合のこと、保育園のこと、その他、私たちには考えも及ばないような困難な問題がたくさんあることでしよう。しかし困難だからと足ぶみ状態でいいいで、少なくとも、全国の幼児たちが、みんな正しい幼児教育を受ける場所を与えられるような対策を進めていってほしいものです。

たとえば、公立を次第に増やしていくとか、公立、私立にかかわらず、いまある幼稚園をもっと充実させていくとか、いずれにしても幼児教育のためにお国が力を使うべきだと思います。

そうなれば、教育の充実という問題もさることながら、経済的な面からでもどんなに助かることでしよう。このことは苦しい家計をやりくりしている母親としては、どうしてもいわずにはいられない問題です。

早い話が、公立では五倍も六倍も保育料が違うのですから、ほんとうに不公平だと考えてしまします。

私の友人など、近所に幼稚園があるのですが、どうも内容がおもわしくないので、二年保育をやめて一年保育にしたそうです。

ところが、一年保育は満員で入園させるのは特別だから二年分の保育料を支払うならといわれて馬鹿らしいから幼稚園はやめた

いうのです。

幼稚園、幼稚園と呼ばれながら、保育内容の面でも、経済の面でも、こうした不合理なことが、あちこちにあるのです。幼稚園の重要性がいくらいわれても、父兄の負担が大きいのでは、結局充実した真の幼児教育など望めるはずがありません。

なお、いままでのことは、少し矛盾するようないいぶんかもしませんが、私たち母親は、幼稚園ブームの波に乗って、やたらに、幼稚園へやりたがる傾向があるのではないのでしょうか。

ここところは、母親としてよく考えるべきだと思うのです。幼稚園が必要であることはいうまでもないことですが、幼稚園へやりさえすれば、万事幼児教育はできるというものではありません。あまり幼稚園へいくことを急ぐことはないと思います。もちろん、年齢にも、その子どもにもよりますが。

小さな子どもたちには、母親のもとでやらなくてはならないことが、たくさんあるのではないのでしょうか。

ことに現状での三年保育など考えるべきです。大勢としては、三年保育普及の傾向にあるのですが、私はひとりの母親として、むしろ反対したいくらいです。どうしても母親が手がけておかなければいけない基本的な躾の途中で、幼稚園へだすことになってしまふからです。

「先生、お手洗いの始末だいたいできるんですが、ちょっとみてやってください」

「先生、ご飯をこぼすんですが、よろしくお願いいたします」

これではいけないと思います。

このように、家庭と幼稚園が協力するのだという人もいるでしょうが、私は家庭でやるべきことは、きっちりやって、それから幼稚園にだすべきだと考えます。

そうしてこそ、幼稚園という舞台でなければできない、真の幼稚園教育ができるのではないのでしょうか。

また、そのためには、当然のことながら先生の資質の向上ということを考えなくてはなりません。これは人間的にいい人であってほしいことはもちろん、幼稚園の先生としての専門教育を受けた人であってほしいのです。

公立などでは考えられないことが、私立には、たくさん無資格の先生がいるのです。このような問題も、ただ単に、その人が悪いとか、その園が悪いというのではなくて、いまの制度につながる問題です。

いずれにしても、一方には、環境にも、内容にも恵まれて、在園率百パーセントに近い地域があるかと思えば、いきたくても幼稚園がない所、またあっても、幼稚園として非常に低いというような地域があるのです。

このような不均衡な状態を一日も早く解消して、幼児の成長発達のために、真の幼児教育が満遍なくいきわたるようにと、これからの幼児教育に望まずにはいられません。